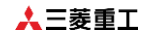


2025年度第2四半期決算説明資料

2025年11月7日

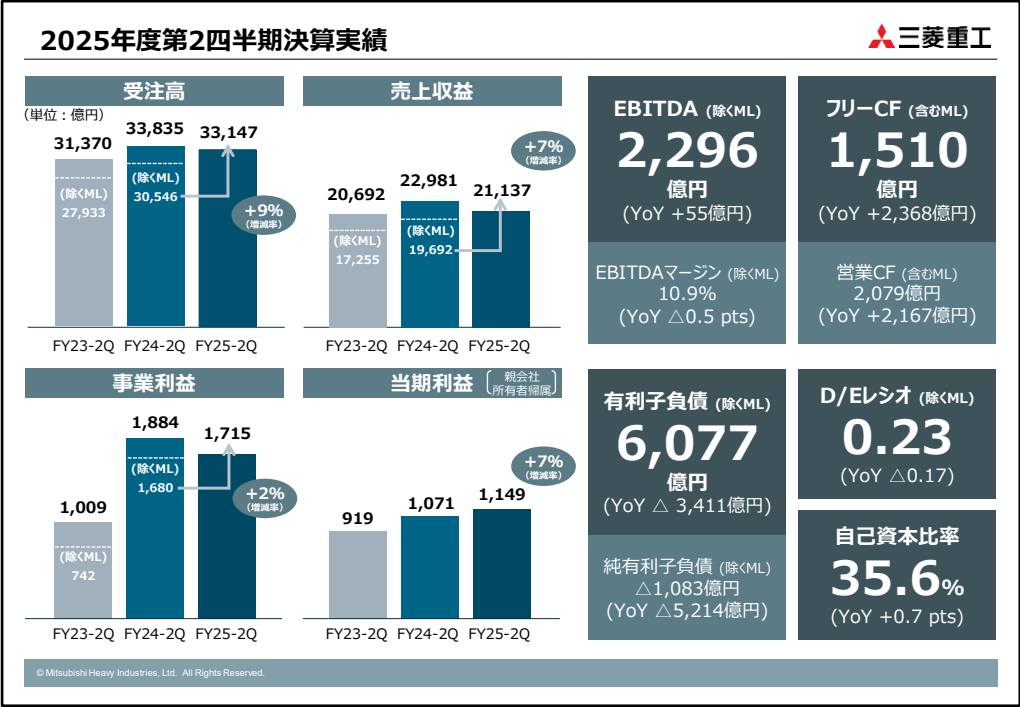
三菱重工株式会社

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.



皆さん、こんにちは。社長の伊藤です。

2025年度第2四半期決算、そして当決算を踏まえた年度見通しと、5月28日に説明しました経営方針の取り組み状況についてお話しします。



+7% (増減率)

FY23-2Q FY24-2Q FY25-2Q

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

2025年度第2四半期の受注高は前年同期より増加し3.3兆円、受注残高は11.5兆円となりました。これはGTCCが世界的な電力需要の高まりを受け、最大市場である北米で多数の受注を獲得したことによりです。さらに台湾電力向けの総出力280万キロワットの超大型案件を受注したことが主な要因です。

売上収益は、伸長事業であるエナジーや防衛に加え、プラント・インフラが順調に伸ばした結果、前年同期より増加し2.1兆円となりました。事業利益は、前年同期より微増の約1,700億円となりました。

業績見通しハイライト



■ 受注高：61,000億円（2025年9月30日公表見通し比：+8,500億円）

	前回見通し	今回見通し	増減
エネルギー	22,000億円	32,000億円	+10,000億円
物流・冷熱・ドライブシステム	7,500億円	6,000億円	△1,500億円

■ 売上高：48,000億円（同上：+500億円）

	前回見通し	今回見通し	増減
エネルギー	18,500億円	20,000億円	+1,500億円
物流・冷熱・ドライブシステム	7,500億円	6,000億円	△1,500億円
その他及び全社又は消去	△500億円	0億円	+500億円

■ 事業利益：3,900億円（同上：±0億円）

	前回見通し	今回見通し	増減
プラント・インフラ	600億円	700億円	+100億円
物流・冷熱・ドライブシステム	400億円	200億円	△200億円
その他及び全社又は消去	△900億円	△800億円	+100億円

■ フリー・キャッシュ・フロー：0億円

- 当期利益は2025年9月30日公表の見通し、配当金は同8月5日公表の見通しから、それぞれ変更なし

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

2025年度の受注高の見通しは6.1兆円で、9月30日に公表した三菱ロジスネクストの売却影響をリカバリーできる見通しです。これはエネルギーセグメントの受注高が当初計画から1兆円増える見通しであることが主要因です。事業利益の予想は3,900億円に変更ありません。

足元の事業環境に大きな変化はなく、伸長事業を中心に、好調な受注が続くと見えています。また、利益面では、主力事業であるGTCCや防衛を中心に、ベースの収益力が改善しています。これは生産性向上等の取り組みの成果によるものと評価しています。今後は、旺盛な受注を確実に利益に結び付けるために、これまでも増してリスク対応を含めたリソースの集中投入等、全体最適の取り組みを加速していきます。

次に、本年5月に公表した新たな経営方針の中で、経営目標を「高利益体質と成長投資の好循環を実現する」と設定し、その達成のために、かつてないスピード感で「全体最適」と「領域拡大」に取り組むこととしました。この取り組み状況についてお話しします。

まず、「全体最適」の一つの視点である「リソースの集中投入」です。リソースの集中投入とは、中長期戦略に関わる重要な局面や、早期のリスク対処が必要な時に、社内のエキスパートを集中投入してスピーディーに対応することです。例えばGTCCでは、旺盛な需要に確実に応えるべく、生産量を30%以上増やすための施策を進めています。これは設備投資や人材雇用だけではなく、リードタイム短縮等の生産性向上も同時に実現する取り組みです。この実現のために、社内のエキスパートを優先的に投入しています。防衛分野では、8月5日に豪州政府が、次期汎用フリゲートとして当社が建造する艦船を選定したと発表しました。この案件の最終的な契約締結のためには、日本政府や護衛艦建造に係る各企業との連携に加え、豪州政府との国際契約交渉等、様々な取り組みが必要であり、社内の専門家を投入しています。

次に「領域拡大」です。この領域拡大の具体的な取り組みは、各事業の中長期の成長シナリオに密接に関わる機微な情報が含まれるため、具体的な活動に関する本日の説明は控えます。公表できるタイミングで説明します。

さらに全社ポートフォリオマネジメントですが、各事業が中長期の成長シナリオを検討し実行していく一方、どこに優先的にリソースを投入するかは、経営判断の上、決定することにしています。9月30日に発表した三菱ロジスネクストとの資本関係の見直しは、この考え方に基づくものです。

最後に、先月の日米首脳会談も踏まえ、米国の事業機会について少しお話しします。当社は米国にGTCC、製鉄機械等、複数の製造及びサービス拠点を有し、長らく事業を営んでいます。昨年の米国向け売上は1.1兆円であり、極めて重要な市場です。今後も米国での事業機会に対応すべく、メーカーとしてしっかり準備をしていきます。具体的にはエネルギーを中心に、米国の顧客の期待に応えるべく、機器供給やサービスの提供を中心に貢献していきます。

2025年度見通しおよび2024事業計画の達成に向け、取り組み中の施策を着実に進めていきます。また、事業環境の変化のスピードはますます上がっていくと予想されるため、変化の予兆への即応力を強化していきます。さらにイノベティブ・トータル・オプティマイゼーション（ITO）の取り組みを加速し、当社グループの持続的で大きな成長を確かなものとしていきます。

以上で、私からの説明を終わります。

目次		 三菱重工
1.	決算のポイント	5-7
2.	2025年度第2四半期決算実績	8-16
	・ 連結経営成績サマリー	
	・ 連結財政状態	
	・ 事業利益増減分析	
	・ セグメント情報	
3.	2025年度業績見通し	17-23
	・ 業績見通しハイライト	
	・ 業績見通しサマリー	
	・ セグメント情報	
4.	補足資料	24-29
	・ 参考データ	
	・ 地域別売上高	
	・ 事業ポートフォリオ組替の実績	
	・ 2025年9月30日公表の連結子会社の異動（予定）に伴う影響	

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

CFOの西尾です。

2025年度第2四半期決算の実績について、資料に沿って、ポイントを説明していきます。

2025年9月30日公表の連結子会社の異動（予定）に伴う影響について



■ 当社は、2025年9月30日に「**当社連結子会社である三菱ロジスネクスト株式会社の非公開化に係る契約の締結および連結子会社の異動（予定）**」についてお知らせしました。

■ 当社グループが適用する国際会計基準（IFRS）では、**売却計画を決定した事業（非継続事業）からの損益ならびに資産・負債を、継続事業からのものと区分して表示**することが求められます。

■ このため、今決算より、**同社及びその子会社・関連会社に係る事業（※以降、当該事業を“ML”と表記）を非継続事業に分類し**、特別な記載が無い限り、前年同期および当期ともに、受注高・売上収益・事業利益はMLを除いた継続事業のみの金額を表示しています。また、MLに直接関連する資産・負債はそれぞれ、「売却目的で保有する資産」と「売却目的で保有する負債」に集約し、他の資産・負債とは区分して表示しています。なお、キャッシュ・フローについては、計算書本体では区分せず、注記で別掲します。

【具体例】2025年9月30日公表の業績予想の修正

2026年3月期通期 業績予想 (単位：億円)	8月5日 公表予想	増減額		計	9月30日 修正予想
		非継続 事業への 組替	事業再編 関連損失 (税引後)		
継続事業の受注高	59,000	△6,500		△6,500	52,500
継続事業					
売上収益	54,000	△6,500	-	△6,500	47,500
事業利益	4,200	△300	-	△300	3,900
税引前利益	4,000	△300	-	△300	3,700
継続事業からの当期利益	2,800	△200	-	△200	2,600
非継続事業					
非継続事業からの当期利益	-	+200	△300	△100	△100
当期利益	2,800	0	△300	△300	2,500
親会社所有者帰属の当期利益	2,600	-	△300	△300	2,300
非支配持分帰属の当期利益	200	-	-	-	200

※9月30日に公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載した数表の数値は、上表の赤字部に該当

財政状態計算書（バランスシート）の表示

資産	負債
現金および現金同等物	営業債務
売上債権	契約負債（前受金）
棚卸資産	短期借入金
売却目的保有の資産	売却目的保有の負債
その他の流動資産	その他の流動負債
固定資産	長期借入金
投資	その他の非流動負債
その他の非流動資産	資本

売却目的で保有する事業に関連する資産および負債を集約し、他の資産・負債とは区分して表示

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

最初に、本説明資料で用いる数値についての留意点を説明します。

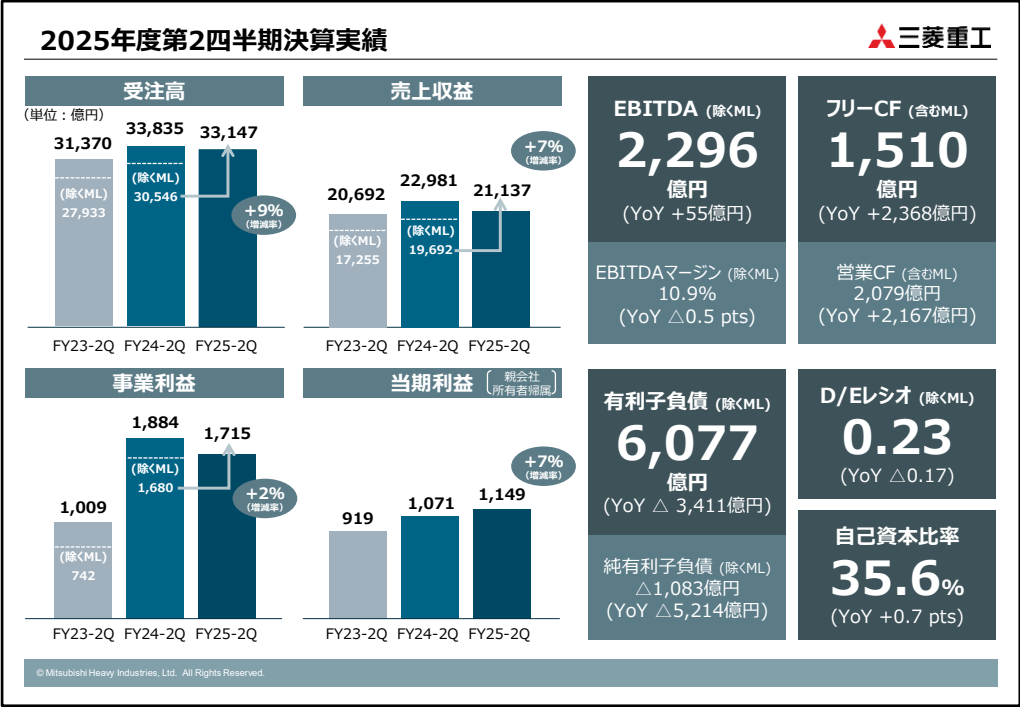
当社は、9月30日に三菱ロジスネクスト（以下、「ML」）の売却計画を決定しました。これに伴い、原則として、受注高・売上収益・事業利益については、MLを除いた数値を表示しています。組み替えた具体的な数値は、末尾の31ページにも掲載しています。

バランスシートにつきましては、総額にMLを含んでいますが、資産サイド、負債サイド、それぞれで売却目的保有の資産・負債として表示しています。

1. 決算のポイント

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

それでは、決算数値の説明に移ります。



このページには、主要な財務数値を記載しています。

受注高、売上収益、事業利益につきましては、冒頭に伊藤がお伝えしましたとおりです。親会社の所有者に帰属する当期利益は1,149億円となり、前年同期対比で7%増となりました。第2四半期の実績としては、過去最高を更新しました。

フリー・キャッシュ・フローは1,510億円の黒字、有利子負債は6,077億円となりました。

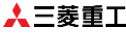
なお、このページには記載していませんが、受注残高は11兆4,983億円となり、前年度末から約1兆2,000億円増加しています。

それでは次に、12ページをご覧ください。

- **受注高 : 33,147億円**（前年同期比 : +2,600億円、9%増）
エナジーが増加。プラント・インフラ、航空・防衛・宇宙は、大型案件を受注した前年同期と比べると減少したが、引き続き高水準の受注高を確保。
受注残高は、前年度末から12,620億円増の11兆4,983億円となった
- **売上収益 : 21,137億円**（前年同期比 : +1,444億円、7%増）
エナジー、プラント・インフラ、航空・防衛・宇宙の3セグメントにおいて前年同期比増収。
主な事業別では、GTCC、防衛・宇宙が売上収益を大きく伸ばした
- **事業利益 : 1,715億円**（前年同期比 : +34億円、2%増）
プラント・インフラ、物流・冷熱・ドライブシステム、航空・防衛・宇宙の3セグメントにおいて前年同期比増益。GTCC、製鉄機械、防衛・宇宙が事業利益を大きく伸ばす一方で、火力事業の一部工事における損失や前年同期の土地売却のリバウンド等もあり、全体では微増となった
- **当期利益 : 1,149億円**（前年同期比 : +77億円、7%増）
事業利益の増加に加え、前年同期に計上した為替差損のリバウンドにより、前年同期比増益

2. 2025年度第2四半期決算実績

連結経営成績サマリー



(単位：億円)	FY2024-2Q (利益率)		FY2025-2Q [B] (利益率)	増減 [B]-[A] (利益率)	(増減率)
		除くML* [A]			
受注高	33,835	30,546	33,147	+2,600	(+8.5%)
売上収益	22,981	19,692	21,137	+1,444	(+7.3%)
事業利益	1,884 (8.2%)	1,680 (8.5%)	1,715 (8.1%)	+34 (△0.4 pts)	(+2.1%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,071 (4.7%)	1,071 (5.4%)	1,149 (5.4%)	+77 (±0.0 pts)	(+7.3%)
EBITDA	2,662 (11.6%)	2,241 (11.4%)	2,296 (10.9%)	+55 (△0.5 pts)	(+2.5%)
フリー・キャッシュ・フロー	△857	△857	1,510	+2,368	
営業キャッシュ・フロー	△88	△88	2,079	+2,167	
投資キャッシュ・フロー	△768	△768	△568	+200	

(*) 除くML：P.3に記載した要領に基づき、2024年度の実績を組み替えて表示

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

連結財政状態



(単位：億円)	FY24末	FY25-2Q末	増減
売上債権（営業債権及び契約資産）	17,765	17,174	△590
棚卸資産	10,625	10,702	+77
その他流動資産	10,725	16,953	+6,228
（うち現金及び現金同等物）	(6,578)	(7,160)	(+582)
（うち売却目的で保有する資産*）	(37)	(5,448)	(+5,411)
固定資産	11,953	9,513	△2,439
投資等	15,519	15,680	+160
資産合計	66,589	70,025	+3,436
営業債務	9,302	7,940	△1,362
契約負債	14,439	17,040	+2,600
その他	11,634	12,848	+1,214
（うち売却目的で保有する負債*）	-	(2,689)	(+2,689)
有利子負債（除くML）	6,513	6,077	△436
資本	24,698	26,119	+1,421
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(23,467)	(24,909)	(+1,442)
負債及び資本合計	66,589	70,025	+3,436

(*) FY24末において売却目的保有に分類した資産は、MLとは直接関係のない当社保有の土地の一部で、FY25-1Qに売却を完了。
FY25-2Q末において売却目的で保有する資産・負債は、いずれもMLに関連するもののみ

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

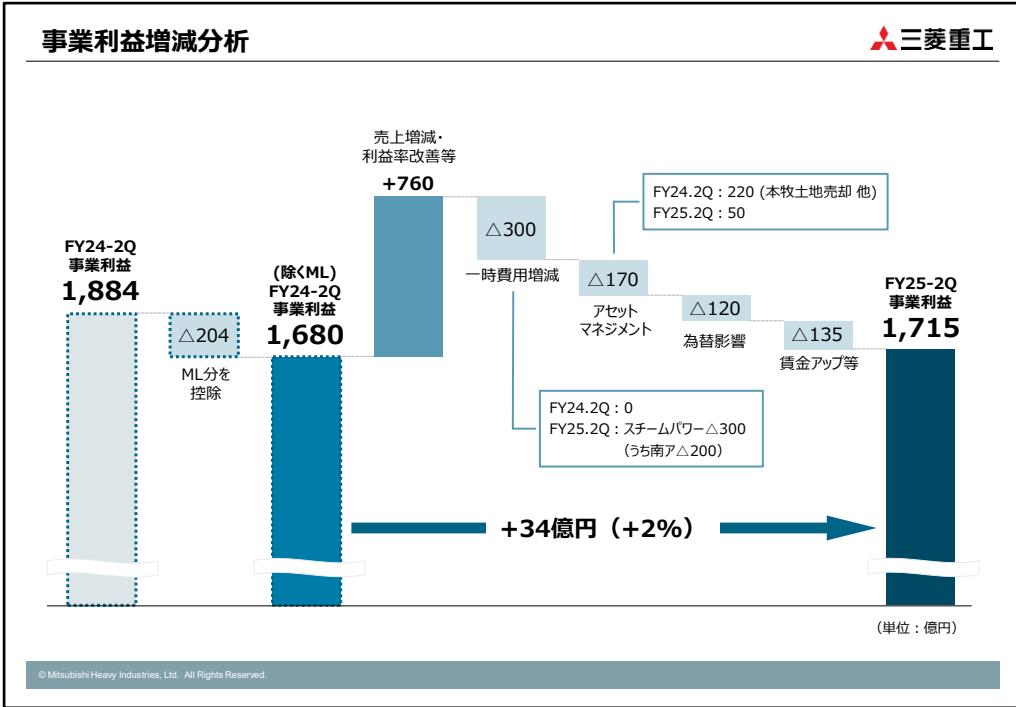
このページには、バランスシートを記載しています。

総資産は7兆円を超えるレベルとなりました。

注目すべきポイントとして、下段の負債サイドの上から2つ目に、契約負債という項目があります。いわゆる前受金に相当するもので、前年度末と比べて2,600億円と大幅に増加しています。

これは、主にGTCCの受注増加に伴うもので、第2四半期でフリー・キャッシュ・フローが1,510億円の黒字となっている大きな要因の一つです。

続きまして、13ページをご覧ください。



このページには、前年同期対比での事業利益の増減要因を示しています。

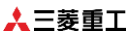
まず、ML分を除いた事業利益1,680億円が、当期実績との同一条件での比較対象となります。

最初に、売上増減・利益率改善等で760億円改善しています。様々な施策の成果が、全セグメントで着実に出ているものと評価しています。

一方で、その右隣に一時費用増減としてマイナス300億円と記載しています。これはスチームパワー事業で、約300億円の引当計上を行ったことによるものです。このうち200億円は、日立製作所と火力事業を統合した際に引き継いだ南アフリカのプロジェクトに関するものです。10年以上にわたり工事を遂行し、この2025年9月に最終12号機の営業運転が開始されるまでに至りました。客先起因の工事遅延に伴い発生したコスト等の負担について、現在も客先と協議中ではありますが、会計上、第2四半期で引き当てたものです。

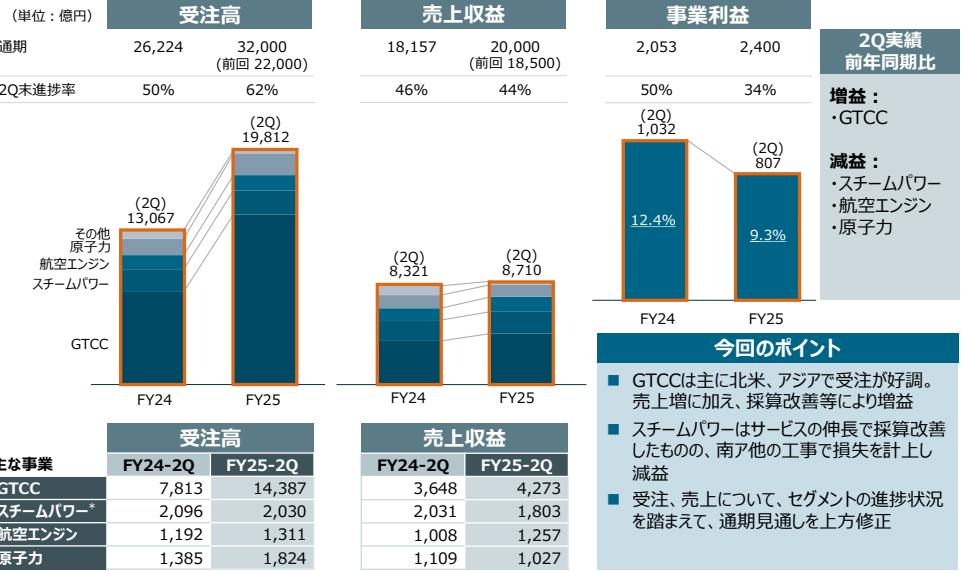
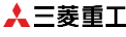
セグメント別の状況については、次ページ以降に記載していますので、それぞれお読み取り下さい。続きまして、21ページをご覧ください。

決算実績 セグメント別内訳



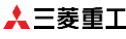
	受注高			売上収益			事業利益		
	FY24 2Q	FY25 2Q	増減	FY24 2Q	FY25 2Q	増減	FY24 2Q	FY25 2Q	増減
(単位：億円)									
エナジー	13,067	19,812	+6,745	8,321	8,710	+388	1,032	807	△224
プラント・インフラ	5,994	4,906	△1,087	3,791	4,159	+367	281	446	+164
物流・冷熱・ ドライブシステム（除くML）	3,287	2,928	△359	3,039	2,824	△214	62	76	+13
航空・防衛・宇宙	8,021	5,450	△2,570	4,317	5,388	+1,071	440	603	+163
その他及び 全社又は消去（除くML）	175	49	△126	222	54	△167	△135	△218	△83
合計	30,546	33,147	+2,600	19,692	21,137	+1,444	1,680	1,715	+34

セグメント別決算実績 <エナジー>



(*) FY24実績は、2025年4月1日のエナジーセグメント内の組織再編の影響を2024年度に遡り反映した金額を記載

セグメント別決算実績 <プラント・インフラ>



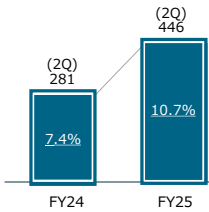
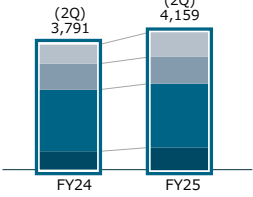
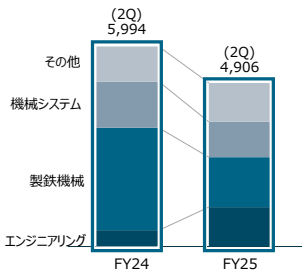
(単位：億円)

	受注高	
通期	10,002	9,000
2Q末進捗率	60%	55%

売上収益	
通期	8,521
2Q末進捗率	44%

事業利益	
通期	596
2Q末進捗率	47%

2Q実績 前年同期比
増益： ・製鉄機械 ・機械システム



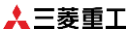
今回のポイント

- エンジニアリングは受注が堅調
- 製鉄機械、機械システムは昨年同期の大型受注のリバウンドで受注が減少するも、増収増益
- その他では環境設備の受注が好調
- 事業利益について、セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを上方修正

主な事業	受注高	
	FY24-2Q	FY25-2Q
エンジニアリング	487	1,181
製鉄機械	3,070	1,496
機械システム	1,386	1,061

売上収益	
FY24-2Q	FY25-2Q
589	704
1,849	1,916
778	798

セグメント別決算実績 <物流・冷熱・ドライブシステム>



(単位：億円)

	受注高	
通期	6,644	6,000 (前回 7,500)
2Q末進捗率	49%	49%

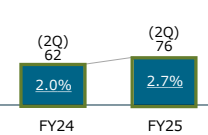
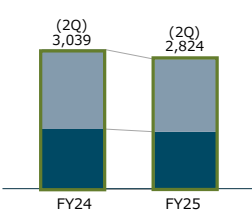
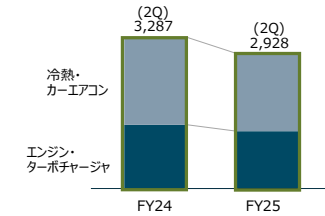
売上収益	
6,410	6,000 (前回 7,500)
47%	47%

事業利益	
204	200 (前回 400)
30%	38%

2Q実績
前年同期比

増益：
・エンジン
・ターボチャージャ

減益：
・冷熱



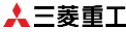
今回のポイント

- エンジンはアジア向けを中心に受注が好調で増収増益
- ターボチャージャは販売台数が減少したものの、サプライチェーンの混乱が収束し増益
- 冷熱は販売台数の減少に加え、為替影響により減収減益
- セグメントの進捗状況を踏まえて、通期見通しを下方修正

主な事業	受注高	
	FY24-2Q	FY25-2Q
エンジン・ターボチャージャ	1,404	1,261
冷熱・カーエアコン	1,924	1,708

売上収益	
FY24-2Q	FY25-2Q
1,328	1,268
1,750	1,596

セグメント別決算実績 <航空・防衛・宇宙>

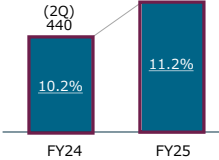
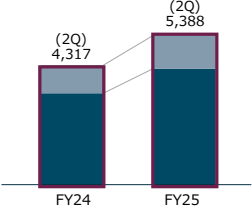
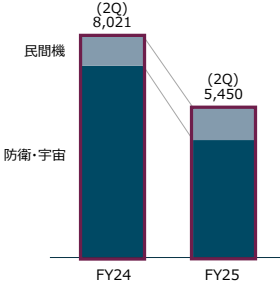


(単位：億円)	受注高	
通期	21,001	14,000
(FY18以降の防衛・宇宙の受注高推移：23ページ)		
2Q末進捗率	38%	39%

売上収益	
10,306	13,500

事業利益	
999	1,400

2Q実績 前年同期比
増益： ・防衛・宇宙 ・民間機



今回のポイント

- 防衛・宇宙は順調な工事の進捗により増収増益
- 民間機は為替円高の影響を受けたものの、主に787の出荷機数が増加したことにより増収増益

主な事業	受注高	
	FY24-2Q	FY25-2Q
防衛・宇宙	6,949	4,276
民間機	1,071	1,173

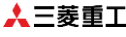
主な事業	売上収益	
	FY24-2Q	FY25-2Q
防衛・宇宙	3,307	4,193
民間機	1,009	1,194

3. 2025年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

米国関税措置に対しては、顧客への価格転嫁を中心とした対策に取り組んでおり、現時点では当社業績にもたらす影響は限定的と想定しております。

業績見通しハイライト



■ **受注高：61,000億円**（2025年9月30日公表見通し比：+8,500億円）

	前回見通し	今回見通し	増減
エナジー	22,000億円	32,000億円	+10,000億円
物流・冷熱・ドライブシステム	7,500億円	6,000億円	△1,500億円

■ **売上高：48,000億円**（同上：+500億円）

	前回見通し	今回見通し	増減
エナジー	18,500億円	20,000億円	+1,500億円
物流・冷熱・ドライブシステム	7,500億円	6,000億円	△1,500億円
その他及び全社又は消去	△500億円	0億円	+500億円

■ **事業利益：3,900億円**（同上：±0億円）

	前回見通し	今回見通し	増減
プラント・インフラ	600億円	700億円	+100億円
物流・冷熱・ドライブシステム	400億円	200億円	△200億円
その他及び全社又は消去	△900億円	△800億円	+100億円

■ **フリー・キャッシュ・フロー：0億円**

- 当期利益は2025年9月30日公表の見通し、配当金は同8月5日公表の見通しから、それぞれ変更なし

業績見通しサマリー



三菱重工

前回公表（2025年9月30日）から変更あり

	2024年度 (利益率)		2025年度 (利益率)		増減 [B]-[A] (利益率)	(増減率)
	(単位：億円)	除くML* [A]	前回見通し	今回見通し [B]		
受注高	70,712	64,051	52,500	61,000	△3,051	(△4.8%)
売上収益	50,271	43,611	47,500	48,000	+4,389	(+10.1%)
事業利益	3,831 (7.6%)	3,549 (8.1%)	3,900 (8.2%)	3,900 (8.1%)	+351 (±0.0 pts)	(+9.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	2,454 (4.9%)	2,454 (5.6%)	2,300 (4.8%)	2,300 (4.8%)	△154 (△0.8 pts)	(△6.3%)
ROE	10.7%	10.7%		10%	△0.7 pts	
EBITDA	5,413 (10.8%)	4,699 (10.8%)		5,100 (10.6%)	+401 (△0.2 pts)	(+8.5%)
フリー・キャッシュ・フロー	3,427	3,427		0	△3,427	
配当	23円 中間11円/期末12円	23円 中間11円/期末12円		24円 中間12円/期末12円	前提為替レート： 1ドル＝145円、1ユーロ＝165円	

(*) 除くML：P.3に記載した要領に基づき、2024年度の実績を組み替えて表示

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページには、2025年度業績見通しの概要を記載しています。

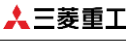
受注高は6兆1,000億円に、売上高は4兆8,000億円にそれぞれ上方修正し、事業利益は3,900億円に据え置きます。

フリー・キャッシュ・フローは、期初見通しのマイナス2,000億円を上方修正し、ゼロとしています。

業績見通しの前提としている為替レートは、1ドル145円です。
なお、為替のエクスポージャーは事業利益ベースで16億ドルです。

続きまして、年間の業績見通しをセグメント別に説明します。
23ページをご覧ください。

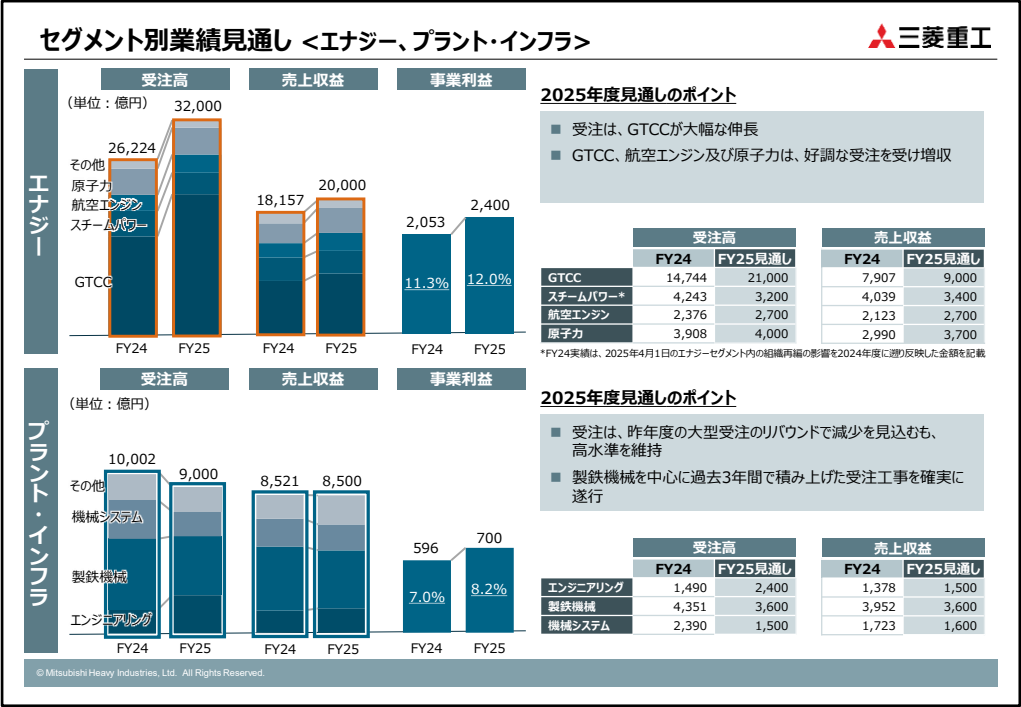
業績見通し セグメント別内訳



前回公表（2025年9月30日）から変更あり

(単位：億円)	受注高				売上収益				事業利益			
	FY24 実績	FY25見通し		FY24比 増減	FY24 実績	FY25見通し		FY24比 増減	FY24 実績	FY25見通し		FY24比 増減
		前回	今回			前回	今回			前回	今回	
エナジー	26,224	22,000	32,000	+5,775	18,157	18,500	20,000	+1,842	2,053	2,400	2,400	+346
プラント・インフラ	10,002	9,000	9,000	△1,002	8,521	8,500	8,500	△21	596	600	700	+103
物流・冷熱・ ドライブシステム (除くML)	6,644	7,500	6,000	△644	6,410	7,500	6,000	△410	204	400	200	△4
航空・防衛・ 宇宙	21,001	14,000	14,000	△7,001	10,306	13,500	13,500	+3,193	999	1,400	1,400	+400
その他及び 全社又は消去 (除くML)	179	0	0	△179	215	△500	0	△215	△304	△900	△800	△495
合計	64,051	52,500	61,000	△3,051	43,611	47,500	48,000	+4,389	3,549	3,900	3,900	+351

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

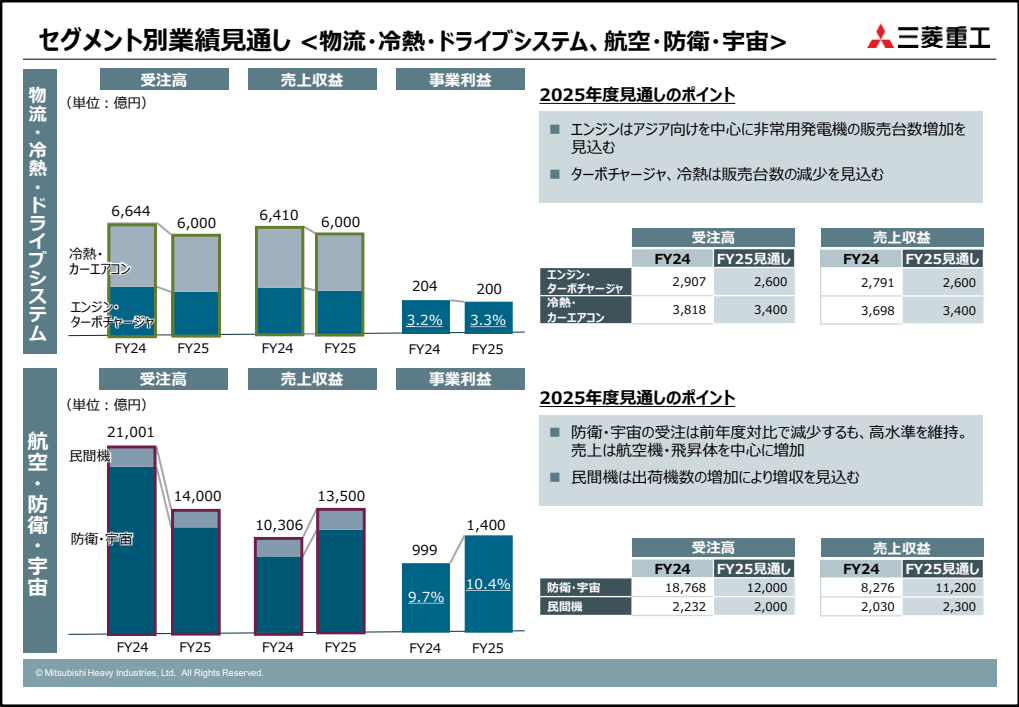


エナジーについては、GTCCの大幅な受注伸長を反映し、受注高を前回見通しの2兆2,000億円から3兆2,000億円に上方修正しました。

事業利益は2,400億円に据え置いています。前回見通しの2,400億円は200億円のリスクバッファを織り込んでいましたが、第2四半期でそれを超過する300億円の一時費用を計上しましたので、下半期はリスクバッファを見込んでいないという前提の数値です。

プラント・インフラは、順調な工事遂行を反映し、事業利益を600億円から700億円に上方修正しています。

続きまして、24ページをご覧ください。



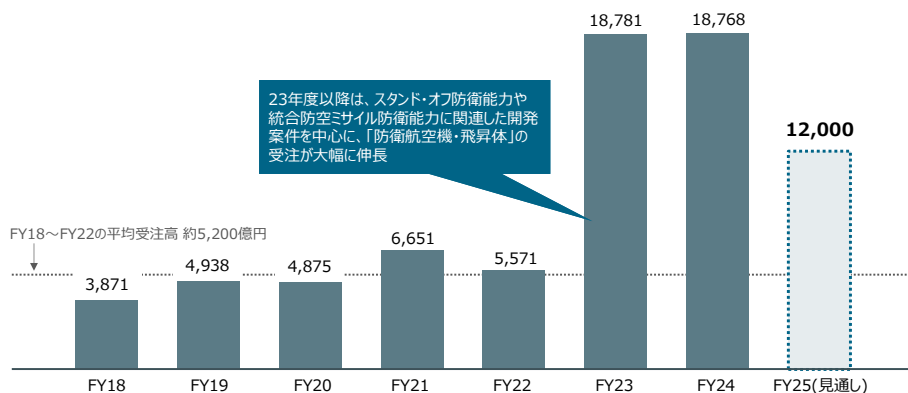
セグメント別業績見通し <補足：防衛・宇宙事業の受注規模>



- 防衛力の抜本的強化に向けた防衛力整備計画が2022年に策定され、23年度以降、防衛予算が拡大
- 現行の5ヶ年計画において、初年度の23年度と続く24年度は大型の開発案件の受注が集中。
25年度は一旦落ち着くものの、18～22年度平均の2倍以上となる高い水準の受注を維持する見込み

受注高

(単位：億円)



© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

このページには、2018年度以降の防衛事業の受注高の推移を示しています。

2023年度と2024年度の受注が際立って多く、それに比べると当期は1兆2,000億円と減少するものの、従来の受注規模からすると依然として高い水準を維持しているということがお分かりいただけるかと思います。

続きまして、28ページをご覧ください。

4. 補足資料

大型ガスタービン 受注台数・契約残台数				民間航空機 出荷機数					
	FY24-2Q	FY24通期	FY25-2Q	777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
米州	5	11	12	FY24	6	6	2	5	19
アジア	3	5	11	FY25	6	8			14
EMEA	1	9	-						
その他	-	-	-	777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
受注台数 合計	9	25	23	FY24	3	3	1	0	7
契約残台数	36	48	67	FY25	0	3			3
【参考】中国の協業先企業における受注台数				787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
	FY24-2Q	FY24通期	FY25-2Q	FY24	9	12	12	12	45
受注台数	5	7	4	FY25	18	17			35

補足資料 参考データ



受注残高

(単位：億円)	FY24-4Q	FY25-2Q
エナジー	49,184	60,504
プラント・インフラ	17,053	18,492
物流・冷熱・ドライブシステム	793	711
航空・防衛・宇宙	35,145	35,098
その他及び全社又は消去	185	176
合計	102,362	114,983

未確定外貨

(億通貨単位)	USD	EUR
未確定外貨（事業利益）	16	2
未確定外貨（金融収益費用）	16	0
前提為替レート	145.0	165.0

為替レート（売上計上平均レート）

	FY24-2Q	FY25-2Q
USドル（円/USドル）	153.2	146.4
ユーロ（円/ユーロ）	164.5	165.8

研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)	FY24-2Q	FY25-2Q	FY25見通し
研究開発費	899	1,041	3,200
減価償却費	560	580	1,200
設備投資	633	695	1,600

販売費及び一般管理費

(単位：億円)	FY24-2Q	FY25-2Q
販管費	2,815	2,983

エナジーセグメント 売上AS比率（累計）

	FY24-2Q	FY25-2Q
GTCC	46%	51%
スチームパワー	66%	78%
原子力	82%	71%
エナジー計	59%	64%

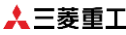
(※) 受注残高、未確定外貨、研究開発費、減価償却費、設備投資、販売費および一般管理費はML分を含まず

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

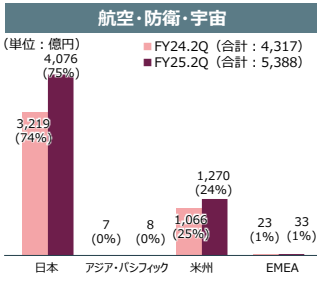
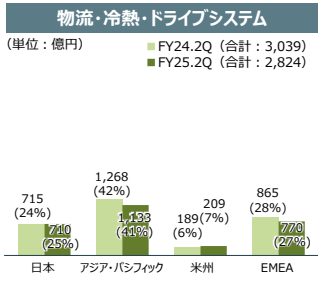
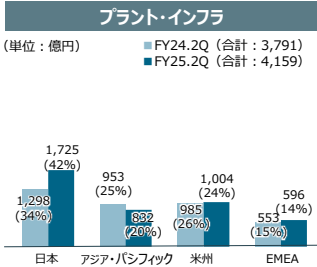
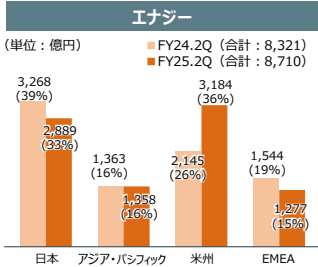
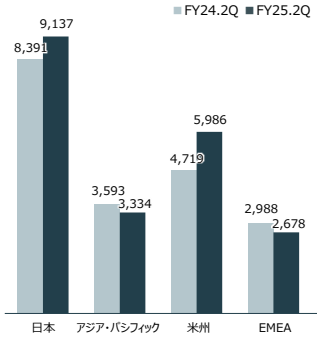
今回から、エナジーセグメントの売上に占めるアフターサービスの比率を記載することにしましたので、ご参考にしてください。

続きまして、30ページをご覧ください。

補足資料 地域別売上高



全社			
(単位：億円)			
	FY24-2Q		FY25-2Q
日本	8,391 (43%)		9,137 (43%)
アジア・パシフィック	3,593 (18%)		3,334 (16%)
米州	4,719 (24%)		5,986 (28%)
EMEA	2,988 (15%)		2,678 (13%)
合計	19,692		21,137

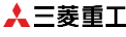


補足資料 事業ポートフォリオ組替の実績				三菱重工
■ 戦略的事業評価制度の本格適用（2012年度）以降、事業ポートフォリオの組替を推進				
	事業買収	事業統合	事業譲渡（含むマイナーJV）	
24事計 成長領域の拡大	データセンター関連等、成長領域でのM&Aを中心に検討中	収益力の強化、ベストオーナーシップ、コア技術を活かした成長機会の追求の観点で、引き続き事業ポートフォリオの最適化に取り組む		・フォークリフト(日本産業パートナーズ)
21事計 収益性の回復・強化 & 成長領域の開拓	・Concentric(OnPoint Group)	・発電機(三菱電機)	・汎用エンジン	
18事計 同上	・製鉄機械(ABP) ・CRJ(Bombardier) ・艦艇(三井E&S)		・洋上風車 ・工作機械	
15事計 構造改革継続 & 売上5兆円への拡大	・冷熱(東洋製作所) ・フォークリフト(ユニキャリア)		・産業用クレーン ・農業機械 ・湘南モノレール ・自動車用エンジンバルブ ・シールド掘進機 ・水門	・射出成形機 ・X線治療装置 ・不動産関連事業 ・ETC車載器 ・船用ディーゼルエンジン
12事計 M&Aによる規模拡大 & 構造改革	・工作機械(Federal Broach) ・フォークリフト(Daily Equipment) ・航空転用ガスタービン(PWPS) ・有機ランキンサイクル(Turboden) ・製鉄機械(Concast)	・火力発電(日立製作所) →2020年 100%子会社化 ・フォークリフト(ニチ工) ・製鉄機械(IHIメタルテック、Siemens VAI) →2019年 Siemensの持分をすべて取得	・商業印刷機 ・リチウムイオン二次電池 ・橋梁	
© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.				

このページには、これまでの事業ポートフォリオ組替の実績を記載しています。

私からの説明は以上です。

補足資料 2025年9月30日公表の連結子会社の異動（予定）に伴う影響



今回の決算実績および通期見直しにおけるML売却決定の影響は下表のとおり

(単位：億円)	FY2025-2Q (利益率)					FY2025通期 (利益率)					
	ML 売却影響 反映前	ML売却影響		計	実績	8/5 公表	今回 見直し ML 売却影響 反映前	ML売却影響		計	今回 見直し
		非継続事業 への組替	事業再編 関連損失 (税引後)					非継続事業 への組替	事業再編 関連損失 (税引後)		
継続事業											
売上収益	24,317	△3,180	-	△3,180	21,137	54,000	54,350	△6,350	-	△6,350	48,000
事業利益	1,790 (7.4%)	△75	-	△75	1,715 (8.1%)	4,200 (7.8%)	4,060 (7.5%)	△160	-	△160	3,900 (8.1%)
税引前利益	1,784	△47	-	△47	1,737	4,000	3,805	△105	-	△105	3,700
継続事業からの 当期利益	1,298 (5.3%)	△38	-	△38	1,260 (6.0%)	2,800 (5.2%)	2,665 (4.9%)	△65	-	△65	2,600 (5.4%)
非継続事業											
非継続事業からの 当期利益	-	+38	△138	△100	△100	-	-	+65	△165	△100	△100
当期利益	1,298 (5.3%)	0	△138	△138	1,159 (5.5%)	(未公表)	2,665 (4.9%)	0	△165	△165	2,500 (5.2%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,287 (5.3%)	-	△138	△138	1,149 (5.4%)	2,600 (4.8%)	2,465 (4.5%)	-	△165	△165	2,300 (4.8%)
非支配持分に 帰属する当期利益	10	-	-	-	10	(未公表)	200	-	-	-	200

© Mitsubishi Heavy Industries, Ltd. All Rights Reserved.

